



stcli node コマンド

- [stcli node コマンド \(1 ページ\)](#)
- [stcli node add コマンド \(2 ページ\)](#)
- [stcli node discover コマンド \(3 ページ\)](#)
- [stcli node disk コマンド \(5 ページ\)](#)
- [stcli node disks コマンド \(5 ページ\)](#)
- [stcli node identify コマンド \(6 ページ\)](#)
- [stcli node info コマンド \(7 ページ\)](#)
- [stcli node list コマンド \(7 ページ\)](#)
- [stcli node maintenanceMode コマンド \(9 ページ\)](#)
- [stcli node remove コマンド \(10 ページ\)](#)

stcli node コマンド

ストレージ クラスタ ノードで実行される操作。



(注) 競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、次のようにノードの追加とノードの削除を同時に実行しないでください：`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

stcli nodes [-h] {discover | list | info | identify | disks | disk | add | remove | maintenanceMode}

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
add	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスタにノードのセットを追加します。
discover	セットのいずれかが必要。	このノードと同じサブネットで検出可能なストレージ クラスタ ノードをリストします。
disk	セットのいずれかが必要。	ノード内の物理ディスクを検索します。

オプション	必須またはオプション	説明
disks	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノードの物理ディスクに関する情報を提供します。
identify	セットのいずれかが必要。	ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。
info	セットのいずれかが必要。	指定されたストレージクラスタ ノードに関する情報を提供します。
list	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ内のストレージクラスタ ノードをリストします。
maintenanceMode	セットのいずれかが必要。	メンテナンス モードを開始または終了します。
remove	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタからノードを削除します。

コマンド デフォルト なし。セット内の 1 つのオプションが必要。

使用上のガイドライン stcli node コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node add コマンド

指定されたノードをストレージクラスタに追加します。



- (注)
- プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
 - stcli node add コマンドは、ストレージクラスタがオンラインで正常な状態であるときのみ使用してください。
 - 競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、次のようにノードの追加とノードの削除を同時に実行しないでください：`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

標準クラスタまたは edge クラスタ:

stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS...] [--esx-username ESXUSERNAME] [--dryrun]
 ストレッチ クラスタ:

stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS...]:<Site Name> [--esx-username ESXUSERNAME] [--dryrun]

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]	必須	ストレージクラスタに追加されるノードの ESXi 管理/vmk0 IP アドレス。
	--dryrun	任意	入力パラメータを検証するだけです。
	Site Name	ストレージクラスタに必須	ノードのサイト名。
	--esx-username ESCUSERNAME	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
	コントローラ VM ルートユーザ パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。 プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。ノードの識別子は必須です。

使用上のガイドライン stcli node add コマンドでは、--node-ips を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) ストレージクラスタに新しいノードを追加する場合に、ストレージクラスタが領域不足の状態であると、ストレージクラスタが自動的に再調整されます。そうでない場合、再調整が毎晩スケジュールされます。

stcli node discover コマンド

このノードと同じサブネットで検出可能なストレージクラスタ ノードをリストします。

stcli node discover [-h]

コマンドデフォルト なし。他にパラメータはありません。

使用上のガイドライン ストレージクラスタに対して stcli node discover コマンドを実行します。

```
# stcli node discover
state:
storfsIp:
  addr:
```

```
stService:
gateway:
subnetMask:
method:
host:
state:
about:
  serviceType:
  instanceUuid:
  name:
  locale:
  serialNumber:
  apiVersion:
  modelNumber:
  build:
  fullName:
  productVersion:
stctlvm:
name:
ip:
guestHostname:
storageNetworkIp:
moid:
role:
entityRef:
  type:
  id: v
  name:
version:
passthrough:
guestState:
mgmtNetworkIp:
name:
ip:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
moid:
ipmiSettings:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
ioVisor:
about:
  serviceType:
  instanceUuid:
  name:
  locale:
  serialNumber:
  apiVersion:
  modelNumber:
  build:
  fullName:
  productVersion:
state:
```

```

bootTime:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
vMotionIp:
  addr:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
enclosureSerialNumber:

entityRef:
  type:
  id:
  name:
progress:

```

stcli node disk コマンド

ノード内の物理ディスクを検索します。

```
stcli node disk [-h] [--id ID | --ip NAME] [--lighton | lightoff]
```

構文の説明

オプション	必須またはオプション	説明
--id ID	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDはstcli cluster info コマンドで、stNodeのフィールドidに表示されます。
--ip NAME	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPはstcli cluster info コマンドで、stNodeのフィールドnameに表示されます。
--lighton	オプション。	ディスク上のIDライトをオンにします。
--lightoff	オプション。	ディスク上のIDライトをオフにします。

コマンドデフォルト

なし。セット内の1つのオプションが必要。

使用上のガイドライン

stcli node disk コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node disks コマンド

ストレージクラスタノードの物理ディスクに関する情報を提供します。

```
stcli node disks [-h] [--id ID | --ip NAME]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>id</code> に表示されます。
	--ip NAME	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>name</code> に表示されます。

コマンドデフォルト なし。セット内の1つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli node disks` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定します。

stcli node identify コマンド

ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli node identify [-h] --ipmiIp IPMIIP [--interval INTERVAL] [--user USER]

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--ipmiIp IPMIIP	必須	Ipmi IP アドレス。
	--interval INTERVAL	任意	ビーコンをオンにするまでの秒数。指定しない場合、ビーコンはオフになります。
	---user USER	任意	IPMI 管理ユーザー名 プロンプトが表示されたら、IPMI 管理パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli node identify` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定し、オプションで1個以上の `{}` で囲まれた位置指定引数を指定します。

stcli node info コマンド

指定されたストレージクラスタ ノードに関する情報を提供します。

stcli node info [-h] [--id ID | --ip NAME] [--summary]

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDはstcli cluster infoコマンドで、stNodeのフィールドidに表示されます。
	--ip NAME	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPはstcli cluster infoコマンドで、stNodeのフィールドnameに表示されます。 --ip オプションは現在サポートされていません。
	--summary	オプション。	概要のみを表示します。

コマンドデフォルト なし。セット内の1つのオプションが必要。

使用上のガイドライン stcli node info コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node list コマンド

ストレージクラスタ内のノードをリストします。

stcli node list [-h] --summary

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--summary	オプション。	概要のみを表示します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli node list コマンドを実行し、[] で囲まれた引数を任意に含めることもできます。

```
# stcli node list
```

```
-----
upgradeState:
state:
```

```
storfsIp:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

pNode:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    displayVersion:
    fullName:
    productVersion:

  retired:
  compression:
  ip:
  dedup:
  nsPrimary:
  dataWriteThruEnabled:
  state:
  bootTime:
  master:
  entityRef:
    type:
    id:
    name:
  version:
  lastModifiedTime:
  name:

host:
  state:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:

stctlvm:
  name:
  storageClusterIp:
  ip:
  guestHostname:
  mgmtClusterIp:
  storageNetworkIp:
  moid:
  role:
  entityRef:
    type:
    id:
    name:
```



```
version:
passthrough:
guestState:
mgmtNetworkIp:

name:
ip:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

moid:
ipmiSettings:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

ioVisor:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:
  state:

bootTime:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
vMotionIp:
  addr:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
enclosureSerialNumber:

entityRef:
  type:
  id:
  name:
upgradeVersion:
-----
```

stcli node maintenanceMode コマンド

ストレージクラスタ内の ESX サーバを HX メンテナンス モードにします。

```
stcli node maintenanceMode [-h] [--id ID | ip NAME] --mode MODE {enter | exit} [--timeout TIMEOUT]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id ID	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>id</code> に表示されます。
	--ip NAME	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>name</code> に表示されます。
	--mode MODE	必須	<code>enter</code> に設定すると HX メンテナンスモードを開始し、 <code>exit</code> に設定すると終了します。
	--timeout TIMEOUT	オプション。	HX メンテナンスモードのタイムアウトを秒単位で設定します。
コマンド デフォルト	なし。いずれか1つのオプションが必須で、 <code>--mode</code> タイプも必須です		
使用上のガイドライン	<code>stcli node maintenanceMode</code> コマンドでは、 <code>{}</code> で囲まれた位置指定引数のいずれかと <code>--mode</code> タイプを指定するほか、 <code>[]</code> で囲まれた引数を任意に指定できます。		

stcli node remove コマンド

ストレージクラスタから指定されたノードを削除します。



(注) コンバージドノードに限り、最大2個のノードのみ削除できます。コンピューティングノードについては、削除可能なノード数に制限はありません。



(注) 競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、次のようにノードの追加とノードの削除を同時に実行しないでください：`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`



(注) クラスタからノードを完全に削除するには、`stcli node remove` コマンドを使用します。後で同じノードを同じクラスタに再度追加する場合は、`stcli node remove` コマンドを実行しないでください。すでに属していたクラスタへのノードの追加はサポートされていません。

```
stcli node remove [-h] [--id-1 ID1 | --ip-1 NAME1] [--id-2 ID2 | --ip-2 NAME2] [-f]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--id-1 ID1	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>id</code> に表示されます。
	--ip-1 NAME1	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>name</code> に表示されます。
	--id-2 ID2	オプション。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>id</code> に表示されます。
	--ip-2 NAME2	オプション。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは <code>stcli cluster info</code> コマンドで、 <code>stNode</code> のフィールド <code>name</code> に表示されます。 --ip オプションは現在サポートされていません。
	-f, --force	オプション。	ストレージクラスタノードを強制的に削除します。

コマンドデフォルト なし。セット内の1つのオプションが必要。

使用上のガイドライン `stcli node remove` コマンドに、`{}` で囲んだ位置の引数を1つ、さらにオプションでセカンドノードのIP情報、またはオプションの引数を `[]` で囲んで指定します。

- ストレージクラスタからノードを削除する前に、DRS が有効になっていることを確認します。DRS は、電源がオンの VM だけを移行します。
- ESXi ノードでは、ノードの削除を実行する前に、まずノードをメンテナンスモードにする必要があります。
- 5以下のクラスタサイズについては、メンテナンスウィンドウをスケジュールし、ノードの削除を実行する前にシャットダウンしてください。
- ネットワークでVMの電源をオフにしている場合は、それらのVMを手動でストレージクラスタに移行する必要があります。そうしないと、ノードを削除した後にアクセスできなくなります。
- DRS が有効でない場合は、手動でVMを移行します。
- ノードを削除するには、ストレージクラスタが正常であり、ノードを削除しても使用可能なノードの数が3ノード未満にならないことが必要です。3ノード未満になると、ストレージクラスタが正常ではなくなります。
- 一度に削除できるノードは最大で2つです(コンバージドノードのみ)。また、ノードの数が5つ以上あるクラスタからのみ削除できます。

